

を判定し得ることが明らかとなった。今後臨床応用へ向けて測定成分の相対的変化量しか測定できない欠点を改良する必要があるが、本法は敏感かつ低侵襲的な脳死肝 viability の評価法として有用であると考えられた。

10. Expression of telomerase reverse transcriptase mRNA and its quantitative analysis in human endometrial cancer

(子宮内膜癌における TERT mRNA の発現と定量的解析についての研究)

大下孝史 (産科婦人科学)

テロメラーゼは癌細胞では高頻度に検出されることから、癌細胞の不死化との関連あるいは癌の遺伝子診断への応用が指摘されている。そこで今回、子宮内膜

癌、閉経後萎縮子宮内膜を対象に、テロメラーゼ活性、hTERT mRNA の発現について検討した。テロメラーゼ活性は non-RT TRAP 法、hTERT 発現は RT-PCR 法によりその発現率を求め、さらに定量化により両者の発現量を検討した。また、その定量値を用い、子宮内膜癌における臨床病理学的因子との関係についても検討した。その結果、テロメラーゼ活性、hTERT は、検出率、発現量ともに子宮内膜癌では萎縮子宮内膜に比べ有意に高発現していた。また、臨床病理学的因子における検討では一定の傾向は得られなかったものの、初期癌においてもテロメラーゼ活性、hTERT 発現が観察された。以上の成績から、子宮内膜癌における早期診断にテロメラーゼの有用性が示唆された。

第451回

広島大学医学集談会

(平成13年2月19日)

—学位論文抄録—

1. 胃・十二指腸疾患から分離した *Helicobacter pylori* の遺伝子型による好中球機能に対する影響

德里夏提 依米提 (デイリシャト・イミド)

(臨床検査医学)

本研究は、胃・十二指腸疾患患者より *Helicobacter pylori* を分離後、培養し、その培養上清の好中球の生存率および遊走能に対する効果を、*vacA* ならびに *cagA* 遺伝子の存在との関連下に検討した。

消化器疾患患者由来株を、選択培地にて分離後、培養し、その遠心上清を用いて、好中球の遊走能を測定した。沈殿は PCR を用いて、*vacA* と *cagA* 遺伝子の検出を行った。また、培養上清の好中球に対する生存率を確認した。

H. pylori の *vacA*⁺ *cagA*⁺ 株と *vacA*⁺ *cagA*⁻ 株のそれぞれの培養上清の好中球に対する生存率はいずれも85%以上であり、有意差がなかった。また、両株は好中球の遊走能を共に統計的に有意に活性化された。また、*vacA*⁺ *cagA*⁺ 株と *vacA*⁺ *cagA*⁻ 株間では *vacA*⁺ *cagA*⁺ 株の方がより強く遊走能を活性化した。

本研究の成果は従来の *H. pylori* の胃粘膜障害で報告されている、直接的障害説および好中球を經由しての間接的障害説を実証する上での一助となった。

2. The anatomic relation among the nerve roots, intervertebral foramina, and intervertebral discs of the cervical spine

(頸椎における神経根、椎間孔、椎間板の解剖学的関連)

田中信弘 (整形外科)

本研究は頸部神経根、神経根糸および椎間孔の微細解剖検討を行い、頸部神経根症の病態を知ることを目的とした。血管内固定された解剖用遺体18体を対象とした。椎間孔は入口部を最狭窄部とする管状構造をなし、逆に神経根は分岐部を最大部とする漏斗状の形態を呈しており、神経根圧迫は椎間孔入口部に集中していた。椎間孔内における椎間板と神経根の位置関係は脊椎高位により異なっており、C8 神経根は C7/T1 椎間板と接触する頻度が少なかった。この特徴は、C8 神経根症が稀な一因と示唆された。椎間孔内では前根は後根の尾側縁に沿って走行しており、神経根を取り巻く様々な圧迫因子により、前根あるいは後根の選択的障害が起こり得ると考えられた。下位頸椎では神経根糸は斜走し、一椎間頭側の椎間板も通過した。また根糸間には硬膜内吻合糸が高頻度に認められた。これらの所見は、神経根圧迫に伴う知覚症状の臨床的差違、重複を説明し得ると思われた。